道岳連だより

広報　ＮＯ.６５
平成２４年５月１３日
北海道山岳連盟

ｈｔｔｐ：／／ｗｗｗ．ｈｏｋｋａｉｄｏ－ＨＡＡ．ｎｅｔ／

青森県十和田山岳会とスキー交流

交流と絆で登った北八甲田山系高田大岳

指導委員会・山岳スキー技術運営委員会が企画した山岳スキー技術研修・強化合宿が、3 月 23 日から 26 日までの日程で青森県八甲田山高田大岳を会場に実施された。北海道からは道岳連会員 25 名が参加し、青森県山岳連盟十和田山岳会 15 名と交流を深めた。以下、リーダー及び参加会員の報告・寄稿文を掲載する。

道岳連山岳スキー隊は、初の道外遠征で東北みちのく八甲田に行きました。昨年３月に企画して、いざ出発前の週に“東北大震災”で中止になったこともあり、今回は是非とも実現したい山行でした。

実施するに当たり、青森県山岳連盟十和田山岳会の下山会長をはじめ、理事長の扇田さんたち会員の皆さんの心温まる歓迎を受け「山をやっていてよかった」とこれほど思ったことはありませんでした。初対面同士の会員がいつの間にか親しく語り、山談義に花を咲かせた一日でした。明日は高田大岳へ登ろう‥下山会長さんから「八甲田で一番の大斜面を滑って楽しんでください！」と、激励を受け「雪面がクラストしたら壺足で登る」とアドバイスをいただきました。

登山当日、快晴の空の下、北海道山岳連盟山岳スキー隊 23 名とスノーシュー2 名は、高田大岳を目指し十和田山岳会のメンバーの激励を受けて出発しました。予定コースは新雪ラッセルで、トップ交代を早めにしてＣｏｎｔ976mから高田大岳の全姿が見えた時は圧巻でした。大斜面が目に飛び込んで身ぶるいをしました。“このコンディションで登頂出来なかったら北海道山岳連盟の恥だ”と思いました。“結果を出すことが交流と絆をより一層深める”そして、十和田山岳会のメンバー全員に対する感謝の印と心に決めました。

7 合目からスキーをデポして、壺足でクラスト斜面をキックステップで、全員で一歩一歩踏んで交替しながら登りました。81 歳の現役山岳スキーヤーの東海林さんも、一番若い女性の神野さんもしっかりステップを刻み、二人は手を取りあって登頂しました。全員登頂を果たし、そして、交流と絆で登った北八甲田山系 高田大岳でした。

（A班リーダー　藤木 晴夫）

高田大岳の雄姿

・・・大先輩と雪の進軍・・・・・・・・・・・・（ロビニア山岳会　　神野 恵子）

私が冬山を登るようになったのは先シーズンの 11 月から。それも引っ越しやなにやらで日常が忙しく、ほんの数回で雪解けを迎えてしましました。そんな私は冬に向け、読書やＤＶＤ鑑賞で妄想を膨らましておりました。中でも大のお気に入りは映画「八甲田山」！！　台詞や細かな動きを暗記するほど見返しました。

昨年の秋頃、北海道山岳連盟で八甲田企画があると聞いた時は、自分の力量度外視で「絶対参加したい！」と心に決めました。始まった今シーズンは、足りない体力を少しでもアップするために、休みという休み、夜勤の明けでも入りでもともかく山を登りまして、なんとか「行けるかもしれない」と思えるところまで行くことができました。

冬山２シーズン目で海を越えることになるとは思いもしないことでした。大大先輩たちと肩を並べてフェリーニ乗り込み、「北海道山岳連盟御一行様」と貼られた個室で過ごしていることが不思議でした。

青森到着後は十和田山岳会の方々が本当に良くして下さり、なんの心配もなく（自分の心配だけしてればいい状態で）快適に行程を進めていくことができました。特に到着当日の懇親会で、十和田山岳会の皆さんがあの大好きな映画「八甲田山」の撮影協力をしていたと知り、下山会長さんから撮影秘話を伺うことができたのは本当に興奮でした！！

山を登る前にすでに「来て良かった！」と感動でした。私がリクエストした「弥三郎節」南部藩の歌だから歌える人はいないんだよとおっしゃっていましたが、二次会では歌って下さったとか。残念なことに私ははしゃぎすぎで部屋でダウンしておりました。生の弥三郎節、聞きたかった！！

そして迎えた 3 月 24 日。麓はあいにくの曇り空でした。先輩たちに交じって登頂を開始したのは 8 時 38 分。同じＡ班には御歳 81 歳（現役ガイド）の重鎮Ｓさんがおり、ご一緒できることを光栄に思いつつの山行でした。ラッセルは深く重いものでしたが、Ａ班・Ｂ班交代で行い、私などは（皆様の心遣いで）ほぼ水平な広場をほんの少し漕いだだけで全くラッセル無しといってよいほど。「申し訳ない」と言う私に、笑顔で「これでおあいこくらいだよ！」と言って下さる先輩。感謝です！かっこいいです。

そして最初の登りが終わり高田大岳が見える頃、見事に雲が晴れ晴天となったのです！山がドーンと挑戦状をたたきつけて来た感じです。「行くしかない！」とフンドシを締めなおす私。憧れの八甲田で「先頭かんじき隊こうた～い！」など、憧れの映画のセリフを言っては喜び、「雪の進軍」を歌っては「ラッセルが足りないかな～？」とからかわれて急いで静かにしたり、素晴らしい八甲田山系の写真を撮りまくりで大興奮の山行が続きました。

1260m付近、10 時 55 分。風が強まってきました。雪の状態からスキーでの登坂は危険と判断され、スキーはデポしツボでの登頂に切り替えられました。吹雪でどんどん視界が悪くなる中、ストックを横に持ち、腰ほどのラッセルを繰り返す先頭を見る。「ほ…本気で雪の進軍になってきた…！」

疲れた、という思いが頭をよぎる頃、後ろから「がんばー、がんばー」の掛け声が聞こえてきました。そのお声の主は最高齢参加者、Ｓさんあのお方ではありませんか！体の芯の方からエネルギーが湧いてくる感じがして「いくぜ～！！」と再び手足を動かすことができました。

視界がほとんど効かない中で、全体からＳさんに山頂をプレゼントしようという声が上がりました。「最年長と最年少が手をつないで行け！」と言って下さいましたが、私はとても恐れ多く、先頭のＹさんと二番手のＫさんの二人がＳさんを「私が風よけになります！」と挟むようにして山頂を目指す姿に、物凄い感動を感じながらその後ろを行きました。

山頂到着は 12 時 15 分。映画「八甲田山」そのものの吹雪の中、皆で記念撮影をしました。下山は立てておいたフラッグ（専門用語ではルート旗でしょうか？）が完璧な道しるべとなっていることを知り、さすが山の大ベテラン集団だなと再度感心しました。登りで体力の８割を使い果たした私の滑りはそれはひどいものでした。生まれたばかりの牛そのもの、筋肉が痛くてブルブル震えました。雪質はもなか雪、上級者も苦戦している所もあったようでした。サブリーダーのＹさんは、自分も滑りを楽しみたいでしょうに、ずっと私を見守って注意を促し、励まして下さいました。一度シールを貼り歩いた後、最後の下りで再びシールを剥がした所でＹさんが「見てごらん、君は今あそこを滑ってきたんだよ！すごいじゃないか、自慢していい」といって高田大岳を振り向かせてくれました。足の痛みと滑りに必死で余裕が無かったところに「本当だ、私ってすごいかも」という感動と、そびえる高田大岳に再び盛り上がる気持ちを取り戻しました。下山終了は 14 時 20 分。私は本当に上に上げてもらったなぁ～としか思えません。大先輩達に山頂を踏ませていただきました。

帰りのバスで「みんな始めはそんなもの、後 10 年もしたらあなたがこちらの立場になっているんだから」と言われました。自分が皆さんの様なレベルまで行けるかは不明ですが、山で受けた恩を自分も山で返したいと思いました。帰りのフェリーでＳさんに「Ｓさんのガンバーの声で山頂まで行けました」とお礼を申し上げたところ「登頂できたのはあなたの力ですよ」暖かく乾いた手を包んで下さいました。感動で目頭ツーン！です。

十和田山岳会の皆様、北海道山岳連盟の先輩の皆様本当にありがとうございました。感謝と感動で胸がいっぱいです！！！

行事･各委員会事業報告

平成 23 年度 第３回理事会

平成 23 年度第３回理事会は､3 月 18 日（日）札幌市民ホールで 41 名の理事が出席し開催された。5 月の定期総会を控え、提出議案は　1 号議案 平成 23 年度前期事業報告について　2 号議案 平

成 23 年度会計収支状況中間報告について　3 号議案 平成 24 年度事業計画原案について　4 号議案 平成 24 年度収支予算原案について　5 号議案 任期満了役員改選について　6 号議案 創立 60 周年記念事業について　7 号議案 諸般の報告等について がそれぞれ提案された。

議事の中で、スポーツクライミング指導者養成講習会における講師配置に対する疑義、会員（役員）の懲罰規定の制定などについて出席理事から意見が出され、会議は一時紛糾したものの、定期総会提案の会長・副会長・監事の理事会推薦候補者選任を含め、提出議案はすべて承認された。

また、道岳連創立 60 周年事業への協力依頼、第 26 回北海道山岳連盟交流登山会等の事業を関係役員が説明し、理事会を閉会した。

道岳連日高登山研修所開き

4 月 14 日～15 日の両日、日高研修所において研修所開きと指導員総会が開催された。当日は運営委員を含め 66 名が参加。研修所内外の清掃後は会場を千栄生活館に移して、管理栄養士石川美幸さんの「山の栄養学」と題する講義、指導員総会を行う。

翌日は、屋外は好天のもと山スキー(1445 峰)班、スノーシュー(ペンケユグトラシナイ)班に分かれて現地研修。室内ではスポーツクライミングと応急手当グループの研修が行われ、正午過ぎに解散した。

指導委員会

指導員総会　4.14　日高登山研修所

平成 24 年度の指導員総会は、日高登山研修所開きに合わせ開催され、指導委員会の運営方針として①指導委員会の組織的性格は、道岳連組織内における指導員の集合体と位置付ける ②指導員の使命は、自らを研鑽し技術・知識の向上を目指すとともに、所属する山岳会や山岳連盟の中（又は地域の中）で、自主的・自発的に山岳技術や知識の普及に取り組む事にある。自らを高めることなしに、安全登山の啓発や組織を牽引する活動は成り得ない ③指導委員会の任務は、指導員が所属組織や地域において、生き生きと活動が出来るよう側面から勇気づけバックアップすることにある。更に組織活動を献身的に担う指導者の「量的拡大と資質向上」を目的として養成・育成に取り組むことである。　と

し、新年度の事業計画７項目を提案した。

また新年度の指導委員会体制は、委員長 明田通世　副委員長 藤木晴夫のほか、指導常任委員に益田敏彦、工藤 寛、横山 温、滝沢大徳、佐藤精久、下山シゲ子、小林君枝の各氏を委嘱した。

普及事業委員会

冬山安全登山講習会（日高会場）　2.18-19　日勝ピーク他

2012 山スキーシーズン、第二弾「冬山安全登山講習会」を、2 月 18～19 日の二日間日高会場で開催し、一般の人と道岳連会員、講師・スタッフ合わせて 18 名の参加がありました。

一日目は基礎編です。参加者 2 班に分かれ日勝ピーク西側の樹林帯で、山スキーに必要な基礎技術を中心に行いました。午前中は、シールの付け方、スキーの歩き方、4 種類の方向転換、安全なルートの取り方、雪崩の危険から身を守る弱層テスト、雪崩埋没者のビーコン捜索などを行い、午後からはスキーで安全に下山する方法として制動を主体にした横滑り、プルーク、斜滑降など種々のバリエーションを交えて行いました。

更に、参加者が最も期待していた滑走技術、プルークボーゲン、シュテムターン、パラレルショートターン、ロングターンなど、山スキーでは多彩な滑走技術を駆使するものと理解していただけたものと思っています。樹林帯では、良質なパウダーが豊富なため、パウダー滑りが急に上手くなったように感じられ、皆さん歓声をあげていました。

二日目はペケレベツ岳を目指してのスキー登山。日勝ピークからペケレベツ岳方面の南斜面は良質なパウダーが豊富な樹林帯です。時間の関係上、中間地点の沢までしか行けませんでしたが、パウダー滑りを存分に堪能していただけたと思っています。二日間とも寒さは厳しかったが、晴れの天気に恵まれ怪我もなく無事終了しました。

また、一日目のスキーの後、机上講習会並びに懇親会では、東京スキー山岳会の皆さん 3 人、札幌山の会の皆さん 5 人が合流し、道岳連 60 周年企画として制作中の山スキー宣伝用ＤＶＤ試写会、首都東京の現状など、情報の交換に遅くまで話に花が咲きました。

今後の普及事業推進に自信を深めた二日間でした。各リーダーのコメントと参加者の感想を掲載します。

日勝ピークの樹林帯を行く

宿舎での机上研修

明田 通世（Ａ班リーダー）…好天に恵まれ且つパウダーに恵まれ、参加者全員が大満足の様子でした。　小野 倫夫（道岳連会長）…近年広がってきた山岳スキーは、ゲレンデスキーよりさらに自

然を楽しめる反面、冬山登山同様の危険があるので、遭難回避のために愛好者は新雪、深雪、雪崩などの知識、実践を習得し楽しんで欲しい。道岳連としては、そんな意味で今回のような講習会を通して、山岳スキー愛好者の輪を広げていきたい。　西谷 芳晴（Ｂ班リーダー）…参加者の皆さんは、山スキーの魅力に取りつかれた人ばかりでした。それはスキー板や靴、ザックなどを見れば一目瞭然です。特に一般の参加者は滑りも良く、パウダーを軽快に滑り、基礎がきちんとできている印象を受けました。彼らは自分をレベルアップするために、講習会に対し大きな期待を持っているようでした。　秋元 節男（Ｂ班リーダー）…普及講習会の目的は、安全登山に留意しながら雪山の素晴らしさを感じてほしいというもの。第１日目、斜度に応じた登りの山スキー方向転換、急こう配の尾根を安全に滑るためのテクニック、これから登る斜面を前に雪崩弱層テスト等を研修しました。参加者の皆さんは研修を通じて、何よりも北日高の自然の素晴らしさ、山スキーの楽しさを体験できたと思います。皆さんには、次なる冬山計画の夢を膨らませてほしいものです。　下山 シゲ子（釧路山遊会）…講習会は、冬山安全登山をする上に必要な知識ということは理解してもらえたと思います。ただ、スキーの滑走方法が現場であまり詳しい指導がなかったため、ちょっと物足りなかったようでした。　**（普及事業委員長　荒堀 英雄）**

・・・冬山安全登山講習会に参加して・・・・・（釧路山岳連盟　千田 恵三）

山スキーの基本技術を指導してもらえるということで、期待をしながら経験が少ない仲間５名と共に会場となる日勝ピークの駐車場に到着。小野会長の挨拶、当日の日程説明、講師・スタッフの紹介の後、今日のテーマであるシール登行、安全な下山、雪崩事故防止等について早速理屈より実践とばかり、参加者 14 名が２班に分かれて日勝ピーク（1445m）の西側に広がるホリゲレンデに向かっていざ出発。

日勝北斜面から西側の林の中を、抜き上げキックターンを主とした４種類のターンを繰り返して登行して行くと、突然視界が広がり傾斜もきつくなる。俄然リキが入るが、先頭の講師秋元さんの力強いキックに差がつくばかり。滑走前の弱層ハンドテストでは、肩と腰の中間ぐらいの力での剪断との判断で危険が少ないことを確認した。尾根を見て滑走をビビッている３人に、親切丁寧にブレーキング、ターン技術を実演誘導して頂き、急に一人前のスキーヤーになった気分でした。夜はひだか高原荘で机上講習の後、東京スキー山岳会と共に楽しい懇親会。

２日目も昨日に引き続き好天に恵まれ、ペケレベツ岳山頂への期待が膨らむ。説明では、天候や滑走などで時間がかかった場合、山頂を断念するとのこと。出発と登りにもたもたしていると案の定、日勝南斜面を下ったところで引き返すことになったが、講師の指導により前日に降った雪質の良い南斜面を登り返し、北斜面も一気に滑り降り、山スキーの醍醐味を堪能することが出来ました。今後もきめ細かな講習を期待します。

ジュニア担当者会議　4.14　日高登山研修所

ジュニア委員会所管事業であるジュニア登山教室は、前年は８月に開催を予定していたが参加者が少数で中止となった。11 月の委員会で冬季の事業も取りやめして減少傾向にある参加者募集対策等の諸課題を整理するため、年明けに各委員に文書による意見聴取を行った。それを踏まえて日高登山研修所開きに合わせて担当者会議を開催した。

研修所開き受付前の時間帯に各常任理事も出席し、様々な観点からジュニア事業に対する指摘やアドバイスがなされた。二日目の研修所開き終了後に再度担当者８名が協議し、少人数での事業継続の可否、ジュニア担当者の研修会実施、普及事業委員会からの分離、スポーツクライミングへの特化検討などを担当委員の「まとめ」とし、常任理事会に諮ることとした。

遭難対策委員会

冬期遭難対策研修会　12.17-18　ニセコ五色温泉

平成23年12月17日～18日にかけ二日間、ニセコ五色温泉において 23 年度冬期遭難対策研修会を開催しました。五色温泉付近は、連日の降雪により道路脇の積雪が 2mを超える状況でしたが、参加者は集合後 2 班に分け、野外において積雪 2mの雪の下に埋められたビーコンを救助者に見立て、15 分以内にビーコンとゾンデで探し、掘り起こしをすることを目的に研修しました。
雪崩の救助は、深く埋もれている場合、捜索から救助まで生死を分ける 15 分以内で救助することの難しさを研修しました。午後 3 時過ぎからは室内において、最近のファーストエイドと栄養食品の研修を行いました。

2 日目は、朝 8 時 30 分からスキー、スノーシューで、班ごとにニトヌプリのすそ野を目指し交代でラッセルしました。悪天候の中、雪は深くかなり進んだところで、強風と傾斜面には風により雪庇の張り出しを発見、撤退を余儀なくされました。

今回は天候が悪く、大雪で参加できない人もいましたが、雪崩に対する救助技術と状況を読み取り、早い判断で撤退することの大事さを学びました。　　（遭難対策委員長　斉藤 邦明）

競技委員会

JFA ユース 2012 北海道代表強化練習　3.10・17　NAC 札幌

ユース北海道代表選手の強化練習は、3 月 10 日と 17 日の 2 回にわたり NAC 札幌で実施された。参加選手は男子が佐藤嘉晃（札幌西高 2 年）、岡本佳明（札幌稲西高 2 年）、大神田恭輔（遠軽高校 2 年）、郡山 翼（遠軽高校 2 年）、菅原宏介（遠軽高校 2 年）の 5 名。女子は橋本菜稀（遠軽高校 2 年）佐々木里穂（札幌中央中 3 年）、小武芽生（札幌宮の丘中 2 年）の 3 名で、1 回目はフラッシングの実践的トレーニング及びインターバルトレーニング。2 回目はインターバル 15 本の実践練習と、大会に向けてのコンディショニングについて講義を受けた。

JFA ユース日本選手権 2012　3.24-25　千葉県印西市

日本フリークライミング協会が主催する同上大会は、千葉県印西市松山下公園体育館クライミングウォールで開催された。ユース代表選手男女 8 名の道外合宿も兼ねて実施され、全国から 186 名の選手が参加した。北海道選手のカテゴリー別の成績は、（女子）小武 ユースＢ‥4 位、佐々木 ユースＢ‥14 位、橋本 ジュニア‥19 位、（男子）佐藤 ユースＡ‥11 位、大神田ユースＡ‥31 位、菅原 ジュニア‥19 位、岡本 ジュニア‥22 位、郡山 ジュニア‥24 位の成績を残した。

畑野監督の大会レポートのうち、紙面の関係から決勝オンサイトに関わる部分のみを紹介

決勝進出は小武一人となり、ここ数年の北海道勢としては最も厳しい結果を突き付けられた。ラップが続くなどルートにクセが感じられたこともあるが、それに柔軟に対応できる登りを磨く必要性を感じた。また、他県からもどんどん新人が台頭してきており、道内の選手の強化も必要と感じる。

25 日は決勝オンサイトである。女子はユースＢ、Ａ，ジュニアとも同一ルートであり、グレードは 5.12d/13a くらいであろうか。小武にはボルダリングジャパンカップでの好成績もあり、優勝が期待される。また、先輩の杉本 怜君が応援に来てくれたことも心強い。

しかし、ユースＢは上位層が厚く、予選２ルートの完登者が５人もいて、気が抜けない。小武は７人中５人目の登場となる。下部は非常に落ち着いていて好調が見て取れる。傾斜部に入り、アンダーガバから大きなスローパーへのムーヴ。正対の足置きが正しいところ、右足アウトでフットホールドに乗り上に伸びるが、甘いスローパーで、足置きを 2，3 度修正するのに手が消耗する。大声援の中、粘って次のホールドはギリギリ止めるも、次は止められず 26＋でフォール、4 位となった。何とか世界ユースの候補に残れそうではあるが、全国で優勝を狙うには、一手一足のミスもできないことが再確認できたルートであった。

前述のとおり、全国大会は年々選手層が厚くなっており、上位に入り、クライミング大国北海道を維持するのには、道内全体の選手強化と裾野の拡大が必要であろう。今回参加した８人は、他県の是永や村井、太田、竹内などの登りに刺激を受け、さらに意欲を持つことができた。

第26回北海道山岳連盟交流登山会札幌大会

北海道山岳連盟創立６０周年記念事業

主　催　　北海道山岳連盟　　主　管　　札幌山岳連盟
期　日　　平成２４年８月２５日(土)～２６日(日)
会　場　　札幌市定山渓自然の村(札幌市南区定山渓)
参加費　　３，０００円
申込み　　平成２４年７月１５日(日)　事務局必着(参加費振込は７月３０日まで)
申込み先　石丸芳子　〒005-0016　札幌市南区真駒内南町 1-1-15-105
　　TEL＆Fax　011-583-3173　Eﾒｰﾙ　yi830.maya@m7.dion.ne.jp
振込先　　北海道銀行本店　普通預金　2066971　札幌山岳連盟会長　佐藤　眞(さとう しん)
コース　　**①札幌岳(1293.8m)冷水コース**(登り 2:40　下り 2:10)
　　②空沼岳(1251m)　(登り 3:20　下り 2:20)
　　③神威岳(983m)　(登り 2:40　下り 2:00)
　　④無意根山(1464m)薄別コース(登り 4:00　下り 3:00)
　　⑤定山渓天狗岳(1144.9m)熊ノ沢コース(登り 3:00　下り 2:00)
　　⑥手稲山(1023.7m)平和の滝コース(登り 3:00　下り 2:10)
　　⑦朝日岳(598.2m)岩戸公園コース(登り 0:50　下り 0:30)
　　⑧夕日岳(594m)定山渓神社コース(登り 0:50　下り 0:35)
　　⑨八剣山(498m)南口コース　(登り 0:50　下り 0:30)
　　⑩焼山　(登り 0:50　下り 0:40)
　　＋①インドア・クライミング(ＮＡＣ札幌・レインボークリフ)

日　程　　8/25　14:00 受付　16:00 開会式　17:00 交流会
　　8/26　設定コースを自主登山　下山報告後各自解散、閉会式はなし

今後の諸行事

「登攀研修会」　指導委員会主管 指導員義務研修

１．期　日　　平成２４年５月１９日(土)～２０日(日)
２．会　場　　サンパワー３８０(室蘭岳山麓総合公園研修所)及びチャラツナイ海岸
　　室蘭市神代町 143-3　室蘭岳山麓総合公園内　℡0143-44-6055
３．対　象　　道岳連会員
４．参加費　　７，０００円(講習料、資料代、宿泊費、懇親会費)
５．日　程　　１９日　13:00 受付～机上講習、実技講習他
　　２０日　チャラツナイ海岸実技研修～14:00 解散
６．申込み　　〒059-0011　登別市常磐町 1-40-4　藤木 晴夫
　　Tel＆Fax　0143-85-5897　　Eﾒｰﾙ　fuji8ma@nifty.com
７．携行品　　登攀に適した服装・装備で、更に次のものを準備してください。
　　①第２日目の昼食(行動食)と非常食
　　②登山用ロープ(二人で一本の割合)、登攀具一式
　　③筆記用具、運動靴

夏期遭難対策研修会　遭難対策委員会主管 指導員義務研修

１．期　日　　平成２４年６月９日(土)～１０日(日)
２．会　場　　日高登山研修所及び周辺の川
３．対　象　　道岳連会員及び一般登山愛好者
４．参加費　　４，０００円(講習料、食事代その他諸経費)
５．内　容　　沢研修(沢登りの安全に知識技術とリスク、沢の歩き方、渡渉実践)
６．日　程　　９日　12:30 受付～研修
　　10 日　研修～正午解散
６．申込み　　〒080-0341　音更町字音更西 1 線 17 番地　斉藤 邦明
　　Tel＆Fax　0155-42-4175(夜 9 時頃まで)
　　※申込み締切　５月３０日(火)
７．携行品　　①沢の中を歩ける靴
　　（ハーネス、カラビナ、スリング、スローバック持っている人）
　　②雨具、シュラフ(水に入るため着替えの服を用意)、筆記用具、室内運動靴

６０周年記念登山＆トレッキング　応募締切6月29日

◎記念登山　コンデ・リ峰(６，１８５m)
◎トレッキング　カラパタール(５，５４５m)・チトワン国立公園
　期　間　　平成２４年１０月２３日～１１月１５日

費　用　　個人負担金　登山 500,000 円、トレッキング 450,000 円(申込み金 5 万円含む)
連絡先　　海外登山委員会事務局

各委員会事業予報　5～7月予定事業

○沢研修会（指導委員会）　6.23-24　漁川～漁岳
○女性リーダー研修会（指導委員会）　7.21-22　ニペソツ山
○中高年安全登山講習会（普及事業委員会）　7.15-16　会場未定
○教職員互助会サポート（普及事業委員会）　7.30-31　会場未定
○第 67 回国体北海道予選会（競技委員会）　7.28-29　美唄工業高校他

その他の機関・団体事業

○ツアー登山セミナー（日本旅行業協会）　5.22　札幌国際ビル８F「国際ホール」
○富良野トレイルラン 2012(富良野トレラン実行委)　6.17　富良野スキー場周辺
○夏山遭難を防止するシンポジューム(道遭対協・道警)　7.13　エルプラザ３F

道岳連６０周年記念Ｔシャツ「十勝岳」販売

◇ 1 枚　2,500 円
◇ 色は４色（白　濃紺　赤　緑）

日本百名山シリーズ №５

道岳連だより　北海道山岳連盟広報　№６５　平成 24 年 5 月 13 日発行
発　行　北海道山岳連盟　事務所　札幌市豊平区平岸 2 条 9 丁目 1-47-502
発行責任者　小 野　倫 夫　編集担当(総務)　内 藤 美佐雄